

第3学年音楽科学習指導案

日 時 平成23年11月11日(金) 2校時
会 場 第2音楽室
生 徒 3年4組(男21名 女16名 計37名)
指 導 者 松場 道子

- 1 題材名 主旋律の変化を感じとり、音楽表現を工夫しよう
合唱曲「自由への讃歌」 作詞 H、ハミルトン
作曲 O、ピーターソン

2 題材について

(1) 学習者観

- ・文化祭合唱コンクールで、混声四部合唱曲「流浪の民」「名づけられた葉(四部)」に取り組んだ。バスが支える四部の響きの美しさや強弱の変化、全体の構成(和声的な部分、ホモフォニーの部分、反復や再現される旋律)パートの役割、歌詞と旋律の結びつきについて学び、それを活かして表現を工夫した。また、歌詞の内容を理解し、全体の中でどう音楽に活かされているか、楽譜から工夫を考えて表現した。
- ・男声の5度のハーモニーの響きが美しいのだが、聴き合う中でのバランスをとる(女声・男声とのバランス)ことや、パートの役割を意識して表現していく力は不十分で、ポイントを示しながら学んできた。女声のハーモニーの響きの中からはみ出す傾向があるが、よく聴いてハーモニーの中に自分の声を溶け込ませるように指導してきた。
- ・音楽を聴いたり、表現したりするとき、感覚的にとらえての音楽表現に積極的なのだが、言葉で表現する力は不十分なので、自分の思いを音楽を形づくっている諸要素を含めて他と交流しながら言葉で話すように指導してきた。

(2) 学習材観

- ・「自由への讃歌」は、英語の歌詞で、ユニゾンから始まり四部合唱へと発展している曲である。この音楽の構成は、8小節単位で主となる旋律を反復変化させている。楽譜を見て、どのように変化しているか強弱や和声に気づき、表現の工夫を考えるさせたい。初めの2小節の旋律が4つの部分で変化しているところ、最後の2小節の変化を、どのように表現したいか考え表現を工夫することによって、音楽の流れを感じとり、自分の音楽のイメージや感情をもち楽曲の良さを表現させたい。
- ・親しみやすいゴスペル調の旋律、人種差別と戦ってきた作曲者の願いが表現されており、独特なリズムからジャズ風な音楽をも感じさせられる。歌詞の意味内容にメッセージ性があり、作曲者の思いを旋律や強弱に関連させて表現させたい。

(3) 学習指導観

- ・学習指導要領から次の指導内容を指導する。

A 表現の ウ	歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら 合わせて歌うこと
------------	---

[共通事項] ア 旋律、テクスチャ、強弱、構成

- ・初めの2小節を取り上げ、主旋律が反復・変化していることに気づかせる。(構成)楽譜から、旋律(音高、ハーモニー)や強弱がどのように変化しているか気づかせ、自分達で表現を工夫させたい。
- ・「我々は自由になれる」という歌詞を取り上げ、作曲者の思いをからめながら変化していることに気づかせ、特徴をとらえた表現の工夫をさせたい。(強弱、旋律)
- ・ユニゾン・二部・三部・四部合唱のハーモニーの変化、男女のかけあいを全体を通して理解し、歌いながら気づかせ表現を深めさせたい。

(4) 研究との関わり

- ・表現を工夫するとき、4人の小グループでの話し合いをし、どのように工夫したいか考え、実際に自分達で歌ってみながら表現をしていく。
- ・「共有の課題」を初めの2小節の旋律に注目させ、同じ歌詞の4つの部分の変化に気づかせ表現の工夫をする。「ジャンプの課題」では、考えた表現の工夫を全体指導で活かしながら、歌いながら表現を深めていく方法をとりたいと考えている。

3 題材の目標と評価規準

観 点	観点 1 音楽への関心・意欲 ・態度	観点 2 音楽表現の創意工夫	観点 3 音楽表現の技能
目 標	歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響き、旋律、テクスチュア、強弱、構成に関心を持って取り組み、それを活かして意欲的に表現する。	音楽を形づくっている要素（テクスチュア、構成、旋律、強弱）を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら歌詞の内容や曲想を感じ取って、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な、発声、発音、呼吸法などの技能を身につけて歌う。
評価規準	①「自由への讃歌」の歌詞の意味内容、心情、歌詞の成立の背景や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ②音楽を形づくっている旋律、テクスチュア、強弱、構成と曲想との関わりに関心を持ち主体的に取り組もうとしている。	①「自由への讃歌」の音楽を形づくっている要素、テクスチュア、構成、旋律の動きと強弱の変化を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞が表す心情、曲の表情や味わいを感じ取ってふさわしい歌唱表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 ②声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解し、音楽表現を工夫している。	①「自由への讃歌」の歌詞の内容や曲想を活かした曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能（発声、発音、呼吸法）を身につけて歌っている。

4 学習指導計画（全4時間）

- (1) 第1次 各パートの旋律を覚え、旋律と曲想の関わりを感じ取る。・・・(2)
- ・範唱を聴き、響きの美しさや旋律の音高、全体構成をとらえる。
 - ・英語の歌詞を朗読し、各パートの旋律を正しく覚える。
 - ・フレーズ感や和音の響きを意識しながらパートの音を覚える。
- (2) 第2次 歌詞の内容を理解し、響きを聴き合いながら全体を歌う。・・・(1)
- ・歌詞を朗読し、言葉の意味や歌詞の内容の理解・曲の背景となる作者の思いを理解する。
 - ・旋律の動きから声部の役割、響きの中での役割に気づき聴き合いながら表現する。
 - ・テクスチュア・強弱について、クライマックスの部分を考えて表現の工夫をする。
- (3) 第3次 主旋律の反復・変化を感じ取り、表現を工夫する。・・・(1) 本時
- ・今まで学んできた、構成、強弱、旋律、テクスチュアを活かし表現の工夫をする。

5 本時の指導

(1) 目標

主旋律の反復と変化を感じて音楽表現を工夫しよう

(2) 展開

【既習の学習】			
・パートの旋律の確認 ・歌詞の内容の理解			
学習活動	学習内容	指導のための工夫	評価の視点・方法
<ul style="list-style-type: none"> ・2分前学習 ・発声練習 ・あいさつ <p>1 共有の学習課題を把握する。</p>	<p>合唱「流浪の民」 「さあ～・・・」 「ハローハロー」</p> <p>前時の確認をしてから「自由への讃歌」を合唱する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい表情で、のびのび発声しているか。 <p>ポイントを示す</p>	<p>見取る</p> <p>前時の内容ができていないか確認する</p>
<p>学習課題1「共有の課題」 「When evry heart～」の表現の工夫をしよう</p>			
<p>2 共有の課題を追究する。</p> <p>3 表現の工夫した内容を交流する。</p> <p>4 ジャンプの課題を確認する。</p>	<p>【協同】</p> <p>○楽譜から、はじめの2小節どのように変化しているか、どのように工夫するか考え、話し合う。</p> <p>【協同】【活動】</p> <p>○実際に考えた工夫を、声に出して歌いながら表現してみる。</p> <p>【表現と共有】</p> <p>○グループで取り組んだ内容を交流する。</p>	<p>○4人グループで体制をつくる。楽譜をよくみて、気づき、工夫する内容を考えさせる。</p> <p>○実際にグループの仲間で歌い、工夫を試しながら曲にふさわしい表現を工夫させる。</p> <p>○合唱隊形で、全体で交流する。良いと思われるものを選んで、みんなで歌い交流させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・違いに気づき、自分なりの工夫をしているか。〔知覚〕 ・歌唱表現しながら考えた工夫をしているか (感受) ・全体の交流で、曲にふさわしい表現ができたか
<p>学習課題2「ジャンプの課題」 「that's when we'll be free」の反復と変化を感じて表現しよう</p>			
<p>5 ジャンプの課題を追究する。</p> <p>6 まとめ</p>	<p>【協同】</p> <p>○5つの部分があり、それぞれ特徴があることを理解し、表現する。</p> <p>○全体の構成がどのようになっているか、(8小節)強弱の変化を中心に表現を工夫する。最後の表現を工夫する。</p> <p>○学びの確認 まとめの合唱</p>	<p>○反復・変化がどのようになっているか気づかせる。(小グループ)</p> <p>○合唱隊形で発問によって表現を歌いながら深めていく。 強弱・構成・旋律 テクスチュを取り上げながら。</p> <p>○主旋律が反復・変化し曲にふさわしい表現の工夫ができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5つの良さを捉えることができたか。 ・ユニゾン、ハーモニーの変化を感じ取りながら表現できているか。強弱・構成旋律、テクスチュアを意識しながらふさわしい曲の表現ができたか。
<p>【次時の学習】</p> <p>・「自由への讃歌」は、ジャズ風なアレンジとなっており、原曲を聴き、更にイメージを膨らませジャズのリズムを生かし表現を工夫する。</p>			